

【短編映画】

本当に
申し訳ありませんでした

企画書



監督

石田 祐規



東京造形大学グラフィックデザイン専攻卒業。

卒業制作に映像作品「石田祐規の卒業製作」を監督／編集。

その後、広告会社に入社。

2019年3月に独立し、映像制作を中心としたクリエイティブによって様々な企業の宣伝活動に貢献。

■2019年10月 映像作品「生」監督／編集 SHIBUYA FILM AWARDS 2019 入選

■2020年9月 短編映画「僕らは同じ場所にいた」監督／脚本／編集 第二回恵那峡映画祭グランプリ

■2021年4月 短編映画「死んで生きる」監督／脚本／編集 国内外映画祭出品中

■ 主な実績

・映像作品「生」3分13秒

SHIBUYA FILM AWARDS 2019 入選



・短編映画

「僕らは同じ場所にいた」



・短編映画

「死んで生きる」



・辻口博啓ショコラ開発

ドキュメンタリー



・株式会社LEOC

ブランディングムービー



〈映画のテーマ〉

他人を叩く世の中は、 もう、うんざりだ。

有名人の不倫謝罪会見を見るたびに思う。これは一体誰に謝っているんだと。

有名人が浮気をした。有名人が不倫をした。その報道に、世の中が目くじらを立てて一斉に叩き出す。

メディアは悪意ある報道で視聴者の好奇心を煽る。

私は思う。関係ないだろと。

不貞行為はもちろん悪いことである、ただ、社会的な犯罪を犯しているわけではないし、

日本中からバッシングを受けるほどのことだろうか。

海外では謝罪会見という文化はほとんど無いという。日本独特の文化なのだ。

私は、浮気や不倫が良い悪いということではなく、関係のない他人に対して、一斉に叩き出す日本の風潮に問題があると思う。

他人のことばかり気にする世の中、異常な同調社会、足並みを揃えない奴は潰すという空気。

そんな空気が、日本中を萎縮させ、新しいことを生み出す環境を無くしているように思う。

不貞行為を認めているわけでは無い、

ただ、この他人を一斉に叩く日本の空気に、うんざりしているのだ。



〈映画のあらすじ〉

俳優の宮部隆は人気絶頂の最中、週刊新春に不倫を報道され、日本中からバッシングを受ける。

その結果、謝罪記者会見を開くことになる。

謝罪会見では、記者から執拗で陰湿な質問を受け、宮部は記者会見で恥を晒される。

謝罪会見は日本中に配信され、日本中から誹謗中傷される。

宮部の妻であり人気女優でもある沢田杏希は、日本中からのバッシングに疲弊していた。

宮部と杏希の息子涼太も、学校でいじめられ、不登校になっていた。

涼太はいじめに耐えられなくなり、首吊り自殺を図るが、母の杏希が救出に間に合う。

そして杏希は怒りに震え、記者会見に乗り込むことを決意する。

宮部隆と沢田杏希の親友だった涼も記者会見を見ていた。

昔、共に舞台俳優として頑張っていたため、2人の苦勞を知っていた、謝罪会見を見て心から傷ついていた。

そして、沢田杏希が謝罪会見に乗り込む。

杏希は、息子を追い詰めた原因、家族を苦しめている原因は、メディアと視聴者であることを訴える。

何のためにこの会見はあるのか、これはただの公開いじめであること。

またそのいじめに、視聴者も加担しているということ。

映画のラスト、杏希は宮部に予想もしないことを突きつける。

〈登場人物〉

宮部 隆 30歳中盤～後半

■役の内容

日本の国民的俳優。日本アカデミーショーで主演男優賞を取るほどの実力派。20代の頃は舞台役者として売れず下積みを続け、30代になり遅咲きブレイク。真っ直ぐで熱い男だが、女好きで夜遊びが絶えない。人気絶頂の最中、不倫が発覚。週刊誌に不倫現場が掲載されてしまう。日本中からバッシングを受け、謝罪会見を行うことになる。

■役のイメージ

真っ直ぐで熱い男。

沢田 杏希 30歳中盤～後半

■役の内容

宮部隆の妻、宮部とは2代のころから舞台役者として共に切磋琢磨していた。お互い役者として売れていない20代後半に結婚。子供も授かる。子育てと役者活動を両立して行い、宮部を献身的に支える。宮部がブレイクすると共に妻の沢田杏希にも注目が集まり役者としてブレイク。夫婦共に役者として売れ、順風満帆の中、夫の不倫が週刊誌に載る。世間からのバッシングに精神的に不安定になってしまう。

■役のイメージ

包み込むような優しさと、芯のある強さを兼ね備えた女性。

宮部 涼太 10歳前後

■役の内容

宮部隆と沢田杏希の間に生まれた一人息子。宮部と沢田の共通の親友が「涼」という名前であったことから、「涼太」と命名。両親が役者として成功していることから、学校で持てはやされていたが、宮部の不倫報道によっていじめの標的に。学校も不登校になり、精神的に追い詰められ自殺を図る。

■役のイメージ

悲しみの表現ができる子。

涼 30歳中盤～後半

■役の内容

宮部隆と沢田杏希が舞台役者だった20代の頃の親友、劇団仲間。20代の頃、宮部と沢田と一緒に3人で売れようと頑張っていたが、涼は自分に才能が無いと思いついて役者の夢を断念。広告会社に就職し可もなく不可もない生活を過ごしていた。宮部と沢田を陰ながら応援し、2人が見事成功したことを嬉しく思っていたが、不倫報道によって日本中からバッシングを受けているのを見て心を痛める。

■役のイメージ

誠実で真面目な優しい印象。

〈登場人物〉

涼の上司 40代

報道記者 A/B/C/D(男性)/E ※セリフあり

会場スタッフA

会場スタッフB

〈エキストラ〉

報道記者 F/G/H

取材技術部 5名

視聴者役 8名

ラーメン屋の店長

ラーメン屋の客 2名

居酒屋の客 4名

〈大まかなスケジュール〉 ※状況により変更になる可能性もあります。

8月～9月中旬：オーディション／ロケハン

9月中旬～10月中旬：読み合わせ／衣装合わせ

10月～12月：撮影

※撮影はスタッフを最小限で行うため、負担を分散させるために
期間を分けて撮影をする可能性が高いです。

12月～2月：編集／完成

撮影場所は関東中心で想定

〈完成後の展開について〉

国内映画祭 応募

国内のあらゆる映画祭に応募し、
受賞を狙います。

海外映画祭 応募

海外のあらゆる映画祭に応募し、
受賞を狙います。

国内外の映画祭に出品し、
受賞を目指します。